

北之島におけるシロハラミズナギドリ

*Pterodroma hypoleuca*繁殖の再確認

千 葉 勇 人 (小笠原自然文化研究所)

佐々木 哲 朗 (小笠原自然文化研究所)

堀 越 和 夫 (小笠原自然文化研究所)

要 約

小笠原諸島最北端の島、北之島 (27° 43' 4" N, 142° 6' 2" E) において、2011年5月19日にシロハラミズナギドリ *Pterodroma hypoleuca* のヒナ1羽を観察・撮影した。北之島において同種は、1978年の繁殖記録以降記録がなかった。

I. はじめに

シロハラミズナギドリは、北太平洋上に分布し、北西ハワイ諸島と小笠原諸島で繁殖するミズナギドリ科の小型の海鳥である。小笠原諸島では、戦前に鴛島、媒島 (?)、南島 (?)、鰹島、北硫黄島、南硫黄島において繁殖していた (杣山, 1930)。しかし、最近の繁殖記録は、南硫黄島と北之島のみに限られていた (Chiba *et al.*, 2007)。このうち北之島では1978年に営巣が報告されて以降 (NHK, 1978)、確実な繁殖記録が得られておらず、繁殖分布地の縮小が危惧されていた (川上ほか, 2008)。

1978年以降、確実な記録がなかった北之島において33年ぶりにシロハラミズナギドリの繁殖を確認したので報告する。

II. 繁殖の確認

北之島の調査は、2011年5月17日から19日にかけて鴛島列島のアホウドリ類を中心とした東京都小笠原支庁と(特)小笠原自然文化研究所の協働事業「海鳥繁殖状況調査」の一環として行われ、5月19日に実施された。

7:00に鴛島を出港し、中ノ島を周回して船上からアホウドリ類を調査した後、8:00に上陸した。北之島は面積0.19 km²、標高52 mであるが、海岸周辺部は岩礁が散在するため小型船しか近寄れず、海況によっては上陸が困難であり、調査の制約となっている。渡船地点は西側南部の岩場で、上陸するには岩伝いに歩き、一部浅瀬を横断しなければならな

かった。今回の調査ルートは西側の海岸部を北上し、北之島（図1）の最高点52 mから西側に伸びる尾根筋を越えたところで、沢筋を登攀し中央の平坦面に出た。そこから52 mピークに向かって少し南下し、東側の入江になっている斜面を踏査した。地上では広範囲にカツオドリ *Sula leucogaster* が営巣しており、ルート上の巣穴ではオナガミズナギドリ *Puffinus pacificus* の成鳥とオーストンウミツバメ *Oceanodroma tristami* のヒナを複数羽確認した。そして東側中腹のオガサワラススキ *Miscanthus boninensis* が群落を形成している緩斜面（図2）の巣穴で、白い綿羽に覆われたシロハラミズナギドリのヒナ1羽を確認した（図3）。しかし、その巣穴を中心にして状況のよく似た巣穴を当たってみたが、オナガミズナギドリとオーストンウミツバメしか確認できず、他にシロハラミズナギドリは発見できなかった。9:30に東側斜面での調査を終了して上陸地点に戻り、10:00には乗船となった。

Ⅲ. 営巣地の環境と営巣時期について

山階（1930）には「Holstは媒島にて六月十六日に成鳥及び綿羽の雛を採集して居る」とある。また、2007年6月17日～27日に調査が行われた南硫黄島では、標高400m以上の土壌の発達した場所で、主に綿羽に包まれた雛がみつまっている（川上ほか、2008）。かつての媒島は森林で覆われており、土壌も発達していたと思われる。今回発見した場所も土壌が厚いオガサワラススキ群落の中であったことからシロハラミズナギドリは土壌がよ



図1 中ノ島から見た北之島



図2 繁殖が確認された東側斜面（オガサワラススキ群落）

(a)



(b)



図3 シロハラミズナギドリのヒナ

(a) 一部綿羽から正羽に換わり始めていた； (b) 蹼膜は基部がピンク色で先半分は黒色

く発達した場所を巣穴として選好しているように思われた。また、ヒナの成長段階はほぼ同等と考えられることから今回は1か月ほど早い。1例だけなので年による変化なのか例年そうなのかの判断は今後の調査に期待したい。

Ⅳ. おわりに

小笠原支庁自然公園係をはじめ聳島調査に参加された方々の協力なくしては今回の再確認はなかった。関係した皆様に厚く御礼申し上げます。

文 献

Chiba H, Kawakami K, Suzuki H & Horikoshi K (2007) The distribution of seabirds in the Bonin Islands, southern Japan. *Yamashina Institute for Ornithology* 39: 1-17.

川上和人・鈴木創・千葉勇人・堀越和夫 (2008) 南硫黄島の鳥類相. 小笠原研究 33: 111-127.

粕山徳太郎 (1930) 小笠原諸島竝に硫黄列島産の鳥類に就て. 日本生物地理学会会報 1(3): 89-186.

NHK (1978) 自然のアルバム. NHKサービスセンター

山階芳麿 (1930) 聳島列島の鳥類. 鳥 6: 323-340.